

平成28年度 事業計画書

学校法人 湘南ふれあい学園

I	事業計画の概要	1
II	主要な重点事業計画	5
III	各学校の事業計画の概要	7
IV	財政計画	12
V	施設・設備計画	14
VI	生涯学習事業及び受託事業計画	14
VII	監査計画	14

I 事業計画の概要

学校法人湘南ふれあい学園の建学の精神である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を基盤とした、人間の尊厳と他者への思いやりの精神は、本学園が運営する湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、下田看護専門学校、医療ビジネス観光情報専門学校、そして、みどり幼稚園の各校園における教育の礎となっています。

本学園は、母体である「ふれあいグループ」の教育部門として、「建学の精神に基づき、社会に奉仕する人材を育成する。」を目的に示しており、地域医療を基盤にした高度な知識・技術を有する医療人材、他職種との連携を図ることが出来る人材、そして、地域社会に貢献できる人材を育成するために、各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、ふれあい研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び 6 S 活動の実践
（業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化）

法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部学科専攻等		開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科	平成 27 年
		リハビリテーション学科	
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
みどり幼稚園			昭和 24 年
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		平成 6 年
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科		平成 10 年
	作業療法学科		
	言語聴覚学科		
	社会福祉専攻科		
	介護福祉士実務者研修		平成 28 年
下田看護専門学校	看護学科		平成 16 年
医療ビジネス観光情報専門学校	医療ビジネス学科		平成 26 年
	観光学科		
	情報システム学科		昭和 61 年

2 学生・園児数・・・学校別

大学（学部・学科等、入学定員、編入学定員、在籍者数、H27年度卒業生数）

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻等			入学定員	編入学定員 (3年次)	在籍者数 H28.4.1				H27年度卒業生数
					1年	2年	3年	4年	
保健医療 学部	看護学科		80	10	82	97	0	0	0
	リハビリテーション 学科	理学療法学 専攻	40	0	43	43	0	0	0
		作業療法学 専攻	40	0	43	40	0	0	0
合計			160	10	168	180	0	0	0

[みどり幼稚園]

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数 H28.4.1			H27年度 卒園生数
			年少	年中	年長	
みどり幼稚園	—	200	60	67	71	51
合計		200	60	67	71	51

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	在籍者数 H28.4.1			H27年度 卒業生数
			1年	2年	3年	
看護学科	80	240	81	87	71	76
合計	80	240	81	87	71	76

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	在籍者数 H28.4.1				H27年度 卒業生数
			1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	80	320	90	85	64	60	50
作業療法学科	20	80	24	19	15	15	16
言語聴覚学科	35	70	32	35			37
社会福祉専攻科	80	160	50	67			55
介護福祉士実務者研修	30	30	28				
合計	245	660	224	206	79	75	158

[下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	在籍者数 H28.4.1			H27年度 卒業生数
			1年	2年	3年	
看護学科	40	120	40	40	40	38
	40	120	40	40	40	38

[医療ビジネス観光情報専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	在籍者数 H28.4.1		H27年度 卒業生数
			1年	2年	
医療ビジネス学科	20	40	10	16	70※
観光学科	40	80	64	74	
情報ビジネス学科	40	80	47	47	
	100	200	121	127	70

※平成27年度より学科編成が変更となったため、平成27年度卒業生は4学科（医療ビジネス科、観光・情報システム科、ホテル・ブライダル科、情報デザイン科）で70名の卒業。

3 専任教職員数 学校別（H28年4月1日現在 教員・職員 計）

※大学のみ、教授 准教授、専任講師、助教、助手

	平成28年度現員（H28.4.1）		計
	教員	職員	
湘南医療大学	44	15	59
みどり幼稚園	18	4	22
茅ヶ崎看護専門学校	17	5	22
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	23	10	33
下田看護専門学校	11	5	16
医療ビジネス観光情報専門学校	10	3	13
法人本部	1	7	8

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健	看護学科	3	9	1	5	0	2	0	3	0	1	4	20	
医療 学部	リハビリテーション 学科	理学療法 専攻	4	0	1	2	2	0	1	0	0	0	8	2
		作業療法 専攻	3	0	2	1	3	1	0	0	0	0	8	2
		10	9	4	8	5	3	1	3	0	1	20	24	

II 主要な重点事業計画

1 重点計画の概要

(1) 認定こども園みどり幼稚園（仮称）の開設準備

平成 29 年度から、みどり幼稚園を幼保連携のこども園に発展させ、1 歳児から就学前まで一貫した教育と保育の連携事業を実施するため、新園舎工事などの準備を行う。また、本グループの医療人材資源も活用した地域連携事業や専門学校・大学の臨床実習施設として実習生の受入れも一層推進させていく。

(2) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科及び作業療法学科定員変更申請

平成 29 年 4 月から、平成 27 年度、平成 28 年度の入学試験及び学生募集の結果並びに志願者の動向、就職先の見通しなどを鑑みて、理学療法学科の入学定員を 80 名から 70 名に、作業療法学科の入学定員を 20 名から 30 名に変更し、学生の確保に努める。

(3) 医療ビジネス観光情報専門学校の改組

平成 29 年度に向けて、定員割れ学科の募集停止、医療事務系学科の充実・強化、及び福祉系資格取得のための学科再編並びにカリキュラムを改定し、学生確保に努める。

医療ビジネス学科（医療経営専攻・医療情報管理専攻）40 名、観光学科 40 名 入学定員計 80 名

(4) 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（仮称）設置準備室

平成 31 年度の大学院設置に向けて、人材確保、教員の研究環境整備などを検討しながら準備を行う。また、大学院設置に向けたアンケート調査を実施する。

(5) コンプライアンスの徹底

ア 寄附行為および各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各会議委員会を運営する。

イ 各校の自己点検・評価を法人全体の機能と照らし合わせて検証する。

ウ 教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。

エ 学生指導記録や USB メモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。

(6) 規程の整備（継続）

平成 27 年度湘南医療大学の開学を受けて、法人及び各校の規程の整備を進めてきたが、更に、学長、学校長、園長がリーダーシップをもって戦略的に運営できるように規程の整備並びに改正して施行する。

(7) 連携事業の推進

ア 各学校間連携事業

隔月に開催する教育部会並びに大学部会の全体研修会及び年 2 回の医療研究会及び専門部会研究会を中心に、全学的な課題（休学者・退学者の減少、国家試験等資格試験合格教育、休退学者を出さない少人数制個別的学习支援、カリキュラム・シラバスの検討 等）を解決するために F D / S D 活動の研修を推進し、その成果を発表する機会を有意義に活用して連携を強化する。

イ 湘南医療大学の地域連携推進室及び研究推進室

神奈川県、横浜市及び戸塚区との連携のあり方を模索し、地域に必要な大学となるように、教育・研究・地域貢献の体制を整備する。

ウ 各校がふれあいグループ医療福祉施設と連携して、魅力ある学校づくりを推進する。

エ 各専門学校では、卒業生と在学生との同窓会等を通じた交流機会を深め、連携を強化する。

2 人事計画及び組織

(1) 人事計画

ア 事業計画を達成するために資質の高い人材を学内外から活用し、全教職員が教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署に適正な人員を配置する。

イ 認定こども園の開設に向けて、運営に必要な教職員を新採用する。

ウ 湘南医療大学では、年次計画による教職員の人員配置を実施する。また、個人研究費に対する人事評価制度を引き続き検討する。

(2) 組織

ア 学園行動規範とPDC活動

本学園の行動規範に従い教職員の自己規律や倫理道徳を徹底する。また、臨機応変かつ早期に問題点・課題点を発見し、PDC活動に取り組み、先延ばしにしない組織を確立する。

イ 教授会等会議

運営管理会議、教授会、学科会議、学校長副学校長会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教学が連動して「教育の質の向上」を目指して国家試験100%、休退学者0を迅速に対処できる組織を構築する。

ウ IR担当の設置

平成28年度は、学園本部内にIR担当者を置き、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案を実施し、理事長を支援する基盤を整える。また、学生・保護者等学園を支援する方々に、的確な運営情報を提供し、学園の姿、目指すものを示し、学園教育への理解を深めてもらう業務を推進する。そのために大学ポートレートへの参入、教育内容・研究内容の開示、グループ関連病院施設等での実習施設情報等、ホームページを刷新し、各校の最新情報を定期的に更新し、解りやすい内容に努める。

(3) 教職員の人材育成

建学の理念を尊重し、学生支援に対応できる教職員の育成は、学園全体の「教育の質の保証」に不可欠である。そのために、教育機関としての公共性の理解、高い倫理観・道徳観、そして帰属意識を高めることができる研修活動を実施する。

3 募集・広報計画

- ア 18歳人口の減少・高等教育機関への全入時代ではあるが、単なる学生獲得競争に翻弄されず、湘南ふれあい学園の魅力（医療グループの教育機関であること）をアピールし、選ばれる学校になるための戦略を入試や募集活動の徹底した分析を通して具体化する。
- イ 中学生・高校低学年生からの募集・広報活動を強化し、早期から「職業意欲」を高めることができる体験イベント等をふれあいグループ病院施設と連携を図った学生募集、広報計画として策定する。
- ウ 各学校の特性を活かし、地域連携や高大連携等を念頭に、目標である入学生の質の転換を図ることができる募集・入試活動を推進する。
- ・入学生の質を落とさないAO入試、推薦入試制度の強化
 - ・湘南医療大学と看護・リハビリ専門学校の個々の特色を生かした差別化と共生化
 - ・国の諸制度を活かした社会人入試の強化
 - ・通学圏内（神奈川・東京・静岡）からの学生募集の強化
- エ 実行力のある広報活動
- ・学校の雰囲気を感じ取れる温かいオープンキャンパス・学校説明会・体験入学の実施。
 - ・将来の職業がイメージしやすく、解りやすい模擬授業や演習等の実施。
 - ・直接受験志願者と対話できるガイダンス活動への積極的な参入。
 - ・WEB広告、スマートフォン、ホームページ等の電子広報活動。
 - ・受験生が望むタイムリーな学内教育活動及び入試情報の提供。
 - ・ふれあいグループ各施設と連携した学園ブランド力を地域に発信する活動。

III 各学校の事業計画の概要

1) 湘南医療大学

- 保健医療学部をめざす教育
 1. 保健医療学部は、保健医療に関する高度な専門知識と技術を教育する。
 2. 保健医療学部は、他職種と連携し、チーム医療を推進する事により、人々の多様なニーズに適切に応えることのできる豊かな人間性を備えた人材を養成する。
 3. 保健医療学部は、主体的に行動し、社会の変化に対応し、地域社会に貢献するための研究活動ができる人材を養成する。
- 全部門の整備・充実
 - I-1. 理念の実践
 - ・学生も教員も、理念の実践者となる。
 2. ディプロマポリシーに沿った教育の実践
 - ・湘南医療大学のディプロマポリシー
 - ①看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身に着け、実践する

ことができる。

②科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。

③相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。

④保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。

⑤幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。

3. カリキュラムポリシーに沿った教育の実践

①教育理念の醸成、倫理的感性の涵養、豊かな人間性、健康、人間と社会、学際的思考を学ぶ科目

②専門基礎、医学を修得する科目

③専門的な知識・技術を修得する科目

④実践的、応用力を養う科目

4. 入学者選抜

・アドミッションポリシーに沿った学生の受入れ。

5. 研究活動

・教員は、大学のミッションを考えた研究活動をする。

II. 私立大学等改革総合支援事業の配点の評価

III. チーム医療の推進

IV. 安全管理体制

2) 茅ヶ崎看護専門学校

○ めざす教育

1. やさしさと思いやりの心をもち、相手の気持ちや痛みに寄り添うことができる

2. 医療の知識と技術に基づいた援助ができる

3. 専門職業人として、生涯、看護の向上を目指し学修する態度をもつ

○ 全部門の整備・充実

I-1. 理念の実践

学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・専門士（専門士）授与の方針

①修業年限以上在籍し、看護学科所定の単位数を修得するとともに、ふれあいグループの理念、職業倫理に則った思いやりをもち、尊厳するべき統合された生活体として対象をとらえることができ、対象の持つ様々な思いや痛みに寄り添い、安寧な生活が送れるよう科学的な根拠に基づいた援助の実践を身につけた学生に対して卒業を認定する。

②専門士の称号を授与する。

3. 看護師国家試験 合格のための取り組み

看護師国家試験の合格を期するために以下の取り組みを実施する。

①基礎科目から小テストを実施することで、学習習慣を身につける。

低学年模試を実施する。

②必修問題、一般状況問題の対策を開始し、知識の定着を図る。

③毎月複数回の過去問や模試を実施し、どんな問題が出題されても怯まない知識力・精神力を身につける。

④不安なこと、わからないことを次に残さないよう、個人面談、学年縦割り制度を利用した手厚い学生サポート体制を整える。

4. 入学者選抜

看護学を真摯に学び、専門職業人としての資質を修得する学修者としての素養を持ち、国家試験に合格することをひとつの目標とした基礎的な能力を持つ人

II 自己点検・評価

本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

III チーム医療

IV 安全管理体制

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

○ 目指す教育

1. すべての人間に対して深い愛情と思いやりをもち、調和のとれた社会人としての成長を図る

2. 医療・福祉の対象である人間や地域社会を総合的に捉え、対象に応じた対応を主体的に実践する能力を養う

3. 変動する社会情勢を認識し、乳幼児から高齢者まで幅広い医療に対応できる能力を養う

4. 社会制度の中で、専門職として果たすべき役割を考え、その役割を遂行する基礎的な能力を養う

5. 知識・技術の向上を目指す研究的態度を養う

I-1. 理念の実践

学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・高度専門士（専門士）授与の方針

①修業年限以上在籍し、各学科所定の単位数を修得するとともに、セラピストとしての素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。

②理学療法・作業療法学科では4年制課程であり、総教育時間が3800時間以上であることから、高度専門士としての称号も授与する。但し、言語聴覚学科は2年制課程のため、専門士の称号を授与する。

3. カリキュラムポリシー

①理学・作業療法士養成校設置基準及び言語聴覚士養成校設置基準に倣い、各セラピストに求められる必要な医療知識・技術を学ぶ。

4) 下田看護専門学校

○ めざす教育

1. やさしさと思いやりの心を持ち、相手の気持ちや痛みに寄り添うことができる
2. 医療の知識と技術に基づいた援助ができる
3. 専門職業人として、生涯、看護の向上を目指し学び続ける態度をもつ

○ 全部門の整備・充実

I-1. 理念の実践

学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・専門士（専門士）授与の方針

①修業年限以上在籍し、看護学科所定の単位数を修得するとともに、ふれあいグループの理念、職業倫理に則った思いやりを持ち、尊厳するべき統合された生活体として対象をとらえることができ、対象の持つ様々な思いや痛みに寄り添い、安寧な生活が送れるよう科学的な根拠に基づいた援助の実践を身につけた学生に対して卒業を認定する。

②専門士の称号を授与する。

3. 看護師国家試験 合格のための取り組み

看護師国家試験の合格を期するために以下の取り組みを実施する。

①基礎科目から小テストを実施することで、学習習慣を身につける。

低学年模試を実施する。

②必修問題、一般状況問題の対策を開始し、知識の定着を図る。

③毎月複数回の過去問や模試を実施し、どんな問題が出題されても怯まない知識力・精神力を身につける。

④近年出題が増えている社会情勢（国家試験に出題が予想される）の情報を新聞等から取り出し、小テストを作成し、実施する。

⑤不安なこと、わからないことを次に残さないよう、個人面談、学年縦割り制度を利用した手厚い学生サポート体制を整える。

4. 入学者選抜

看護学を真摯に学び、専門職業人としての資質を修得する学修者としての素養を持ち、国家試験に合格することをひとつの目標とした基礎的な能力を持つ人

II 自己点検・評価

本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

III チーム医療

IV 安全管理体制

5) 医療ビジネス観光情報専門学校

○ めざす教育

学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、医療、観光に関わるビジネス並びに情報技術に関する専門知識及び技術を習得させ、社会人として必要な教養の向上を図り、地域

社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

I-1. 理念の実践

学生も教職員も、理念の実践者となる。

2. 卒業認定・専門士授与の方針

修業年限以上在籍し、各学科所定の単位数を修得するとともに、医療・観光・情報のスペシャリストとしての素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、専門士としての称号も授与する。

3. カリキュラムポリシー

- ①専修学校設置基準に倣い、各専門職に求められる必要な知識・技術を学ぶ。
- ②学んだ知識・技術を実習などの実践に役立て、即戦力となる専門職技術者を目指す。
- ③キャリア教育により社会人としてのメンタリティを強化する。
- ④国家試験、検定試験等、多くの資格を取得する。

4. 入学者選抜

- ①最後まで粘り強く、学習に励み、必ず卒業するという覚悟を持つ人
- ②目標に向かって学んでいく意欲がある人
- ③他者と協力して、課題を解決することが出来る人
- ④基本的な生活習慣が身についている人
- ⑤グループに貢献する意欲がある人

II 自己点検・評価

本校は、教育の質の向上に努めるために、理念・目標に照らして自らの教育活動の状況について自己点検し、優れている点や改善をする点等自己評価を行う。

III チーム医療

IV 安全管理体制

6) みどり幼稚園

○めざす教育

学校教育法第22条及び第23条に基づき幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

年少：園生活に慣れ、保育者や友達と関わりながら喜んで遊ぶ。

年中：基本的な生活習慣を身につけ、友達とつながりを深め、自主的に取り組む。

年長：様々な経験や活動を通して、仲間の大切さを感じ取ったりする。

全部門の整備・充実

I-1 理念の実践

理念に基づき、幼稚園の教育方針を踏まえた保育活動、行事を実践し、充実させることができる。

2. 教育の実践

・集団生活に慣れることができる。

- ・集団生活のルールを身につけることができる。
(順番を待つ・並ぶ・話を聞く・自分の思いや考えが言える・友だちと遊ぶなど)
 - ・運動あそびを経験することができる。(走る・跳ぶ・投げるなどが出来るようになる)
 - ・技術を学ぶことができる。(紙を折る・のりを使う・はさみで切るなど)
 - ・他者と協力して物事ができる。(運動会・発表会・作品展など)
 - ・友だちを作ることができる。(異年齢の交流も行う)
 - ・やる気を出して、様々な活動に興味や関心を持ち、活動することができる。
 - ・いろいろな体験や経験を通して、得意・不得意を知り、最後までやりぬく力を育てることができる。
 - ・正しい食習慣を身に付けることができる。
 - ・園の特色である体操、乾布摩擦、英語活動を継続的に活動することができる。
3. 園児受け入れの方針
- ・明るく、元気な子ども
 - ・基本的な生活習慣が身についている子ども(挨拶・食事・排泄など)
 - ・幼稚園の教育方針を保護者が理解し(関わりが困難な子供を含め)、保育活動や行事などに協力が可能であること。
4. グループとの連携活動
- ・教職員は全体研修会に参加して自己研鑽し、保育指導に活かす。
 - ・ふれあいグループの各校・施設と連携し、実習生の受け入れ、子育て支援活動、及びボランティア活動に協力する。
5. 安全管理体制
- ・危機管理対策として避難訓練を継続的に行い、園児達の安全確保に繋げる。

IV 財政計画

- (1) 平成 28 年度予算編成方針
- ア 教育の質の向上のため、及び研究環境を整備するための経費の計上
 - イ 学園の理念に沿った教育活動の展開に必要な事業効率の向上による経費の削減
 - ウ 地域医療並びにふれあいグループに必要な人材を育成するための発展的投資
- (2) 予算概要
- ア 湘南医療大学：
 - ・開設次年度に必要な教育用備品 5,375 千円及び図書費 14,781 千円の計上
 - ・大学開学 2 年目の教員増等に要する人件費及び経常経費の増加分の計上
 - イ みどり幼稚園：
 - ・認定子ども園設置にかかる事業費約 190,000 千円の計上
- (3) 財務(別添資料 1)
- ア 資金収支予算の概要

平成 28 年度の資金収支予算は、資金収入（学生生徒納付金、手数料収入、寄附金収入、補助金収入等）の合計が、前年度繰越支払資金約 26 億 3300 万円を含め約 49 億 6800 万円となりました。

※ 湘南医療大学学費収入増及び 2 看護専門学校の学費改訂等により、前年度比約 2 億 8300 万円の学生生徒納付金収入の増収を見込んでいます。

また、資金支出（人件費、教育研究経費、管理経費、施設設備費等）の合計は、約 22 億 800 万円で、この結果、差し引き約 27 億 6000 万円が次年度繰越支払資金となります。

イ 事業活動収支計算書の概要

平成 28 年度の事業活動収支予算は、教育活動収入（学生生徒納付金、手数料、寄附金、補助金等法人に教育活動のみに係る収入）は、約 21 億 7300 万円となり、教育活動支出は、人件費、教育研究経費、管理経費等で、約 20 億 3300 万円の予算を編成した。その他、教育外活動支出では、借入金利息支払い 4400 万円の支出を計上した。

それにより、基本金組入前当年度収支差額は約 9950 万円の収入超過を見込んでいます。

尚、基本金組入額（施設設備等の積み立て等に充当）は、約 1 億 2650 万円となります。

ウ 主要財務指標

比率名	算出方法	平成27年度(予算)	平成28年度(予算)
人件費比率	人件費/経常収入	52.5%	50.3%
人件費依存率	人件費/学生生徒納付金	68.4%	60.3%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	27.5%	28.7%
管理経費比率	管理経費/経常収入	12.4%	14.4%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	5.4%	4.5%
基本金組入後収支比率	事業活動支出/事業活動収入-基本金組入額	122.2%	101.3%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	76.7%	83.4%
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	9.3%	3.7%
補助金比率	補助金/事業活動収入	6.1%	5.9%
減価償却額比率	減価償却額/経常支出	14.1%	13.5%
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	5.4%	4.5%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額/教育活動収入計	7.4%	6.4%

経常収入＝教育活動収入+教育活動外収入 計

経常支出＝教育活動支出+教育活動外支出 計

V 施設・設備計画

主な施設・設備計画については下記のとおりである。

年度	事項	事業規模	実施時期
平成 26-28 年度	湘南医療大学 教育備品購入 平成 26-28 年度の第 3 次購入分	校具・備品 450 点	平成 28 年 9 月納入予定
平成 26-28 年度	湘南医療大学 図書購入 平成 26-28 年度の第 3 次購入分	図書 2,567 冊 学術雑誌 119 誌 データベース 5 セット	平成 28 年 9 月納入予定
H28 年度	みどり幼稚園 施設設備 平成 29 年度 認定こども園事業分	園舎（トライスクール棟）増改築工事	平成 29 年 2 月竣工予定
H28 年度	みどり幼稚園 教育備品購入 平成 29 年度 認定こども園事業分	教具・備品 50 点	平成 29 年 2 月納入予定

※その他、各学校の修繕計画、教育備品の購入計画等に基づき、配備する。

VI 生涯学習事業及び受託事業計画

ア ふれあい医療福祉研修センター（別添資料 2）

神奈川県内の医療福祉関係従事者並びにふれあいグループ職員の希望者を対象

福祉系講座：喀痰吸引等研修、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、社会福祉士
実習指導者講習会、ケアマネ試験受験対策講座、認知症サポーター養成講座

医療事務系：医療事務講座（初級・中級）

看護系：看護師実習指導者講習会

尚、H29 年度に向けて、認定看護師養成研修事業の開設準備を行う。

イ 医療ビジネス観光情報専門学校

神奈川職業訓練支援センターの委託認定講座を受託し、生涯教育活動を推進する。

VII 監査計画

平成 28 年度監査計画に基づき、会計監査、監事監査及び内部監査を実施するとともに、監事、会計監査人との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。（別添資料 3）

平成28年度資金収支予算書

(別添資料1)

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

(単位:円)

収入の部	
科 目	予 算
学生生徒等納付金収入	1,815,057,000
授業料収入	1,219,540,000
入学金収入	122,830,000
実験実習料収入	111,050,000
施設設備資金収入	340,675,000
暖房費収入	555,000
諸費収入	407,000
付属教育事業収入	20,000,000
手数料収入	52,510,000
入学検定料収入	40,590,000
試験料収入	7,150,000
証明手数料収入	570,000
諸費収入	0
専攻科検定料収入	400,000
実習費負担金収入	3,800,000
寄付金収入	80,000,000
特別寄付金収入	0
一般寄付金収入	80,000,000
補助金収入	127,544,000
都道府県補助金収入	118,759,000
市町村補助金収入	8,785,000
資産売却収入	0
その他の資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	60,540,000
補助活動事業収入	36,360,000
付帯事業収入	3,000,000
教材料収入	5,100,000
業務受託収入	14,080,000
収益事業収入	2,000,000
受取利息・配当金収入	1,270,000
その他の受取利息・配当金収入	1,270,000
雑収入	37,405,000
施設設備利用料収入	15,200,000
その他の雑収入	22,205,000
借入金等収入	0
長期借入金収入	0
前受金収入	1,145,262,500
授業料前受金収入	766,570,000
入学金前受金収入	122,830,000
実験実習料前受金収入	59,525,000
施設設備資金前受金収入	196,337,500
教材料前受金収入	0
諸費前受金収入	0
実習費負担金前受金収入	0
その他の収入	35,350,000
前期末未収入金収入	27,350,000
貸付金回収収入	0
預り金受入収入	8,000,000
仮払回収収入	0
敷金回収収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,020,283,000
期末未収入金	△ 27,350,000
前期末前受金	△ 992,933,000
前年度繰越支払資金	2,633,686,998
収入の部合計	4,968,342,498

支出の部	
科 目	予 算
人件費支出	1,087,820,000
教員人件費支出	834,520,000
職員人件費支出	249,340,000
役員報酬支出	3,960,000
退職金支出	0
教育研究経費支出	382,018,000
消耗品費支出	44,108,000
光熱水費支出	47,790,000
旅費交通費支出	4,538,000
奨学費支出	36,300,000
福利費支出	10,350,000
通信費支出	4,891,000
印刷製本費支出	1,740,000
修繕費支出	26,200,000
損害保険料支出	7,850,000
賃借料支出	9,900,000
報酬委託手数料支出	141,197,000
保健衛生費支出	512,000
行事費支出	7,300,000
実習費支出	12,780,000
研修費支出	822,000
教材費支出	15,200,000
給食費支出	10,000,000
雑費支出	540,000
管理経費支出	293,136,000
消耗品費支出	29,646,000
光熱水費支出	12,180,000
旅費交通費支出	6,200,000
福利費支出	13,300,000
通信費支出	11,244,000
印刷製本費支出	15,600,000
修繕費支出	7,704,000
損害保険料支出	2,040,000
賃借料支出	7,078,000
公租公課支出	10,200,000
広報費支出	72,386,000
諸会費支出	2,418,000
渉外費支出	150,000
報酬委託手数料支出	90,195,000
負担金支出	245,000
保健衛生費支出	0
行事費支出	0
実習費支出	1,000,000
研修費支出	950,000
教材費支出	2,400,000
給食費支出	4,700,000
車両燃料費支出	1,530,000
雑費支出	1,970,000
借入金等利息支出	43,263,000
借入金利息支出	43,263,000
借入金等返済支出	103,974,000
借入金返済支出	103,974,000

科 目	予 算
施設関係支出	236,740,000
建物支出	232,000,000
構築物支出	4,740,000
建設仮勘定支出	0
設備関係支出	45,534,000
教育研究用機器備品支出	24,576,000
管理用機器備品支出	2,650,000
図書支出	18,308,000
車両支出	0
資産運用支出	0
その他の支出	99,500,000
前期末未払金支払支出	97,000,000
預り金支払支出	0
その他の固定資産支出	0
預託金支出	0
前払金支払支出	2,500,000
仮払金支払支出	0
予備費	15,000,000
資金支出調整勘定	△ 99,500,000
期末未払金	△ 97,000,000
前期末前払金	△ 2,500,000
翌年度繰越支払資金	2,760,857,498
支出の部合計	4,968,342,498

事業活動収支予算書

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

	科 目	予 算
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,815,057,000
	授業料	1,219,540,000
	入学金	122,830,000
	実験実習料	111,050,000
	施設設備資金	340,675,000
	暖房費	555,000
	諸費	407,000
	附属教育事業収入	20,000,000
	手数料	52,510,000
	入学検定料	40,590,000
	試験料	7,150,000
	証明手数料	570,000
	諸費	0
	専攻科検定料	400,000
	実習費負担金	3,800,000
	寄付金	80,250,000
	特別寄付金	0
	一般寄付金	80,000,000
	現物寄付金	250,000
	経常費補助金等	127,594,000
	国庫補助金	50,000
	都道府県補助金	118,759,000
	市町村補助金	8,785,000
	付随事業収入	60,540,000
	補助活動事業収入	36,360,000
	付帯事業収入	3,000,000
	教材料収入	5,100,000
	受託業務収入	14,080,000
	収益事業収入	2,000,000
	雑収入	37,405,000
	施設設備利用料収入	15,200,000
その他の雑収入	22,205,000	
教育活動収入計	2,173,356,000	

	科 目	予 算
教育活動収支	人件費	1,094,860,000
	教員人件費	834,520,000
	職員人件費	249,340,000
	退職金	0
	退職給与引当金繰入額	11,000,000
	教育研究経費	624,448,000
	消耗品費	34,308,000
	光熱水費	47,790,000
	旅費交通費	4,538,000
	奨学費	36,300,000
	福利費	10,350,000
	通信費	4,891,000
	印刷製本費	1,740,000
	修繕費	26,200,000
	損害保険料	7,850,000
	賃借料	9,900,000
	報酬委託手数料	141,197,000
	保健衛生費	512,000
	減価償却額	252,230,000
	行事費	7,300,000
	実習費	12,780,000
研修費	822,000	
教材費	15,200,000	
給食費	10,000,000	
雑費	540,000	
管理経費	314,505,000	
消耗品費	22,349,000	
光熱水費	12,180,000	
旅費交通費	6,200,000	
福利費	13,300,000	
通信費	11,244,000	
印刷製本費	15,600,000	
修繕費	7,704,000	
損害保険料	2,040,000	
賃借料	7,078,000	
公租公課	10,200,000	
広報費	72,386,000	
諸会費	2,418,000	
渉外費	150,000	
報酬委託手数料	90,195,000	
負担金	245,000	
保健衛生費	0	
減価償却額	28,666,000	
行事費	0	
実習費	1,000,000	
研修費	950,000	
教材費	2,400,000	
給食費	4,700,000	
車両燃料費	1,530,000	
雑費	1,970,000	
徴収不能額等	0	
徴収不能額引当金繰入額	0	
徴収不能額	0	
教育活動支出計	2,033,813,000	
	教育活動収支差額	139,543,000
事業活動支出の部		

教育活動収入の部	事業活動収入の部	科 目	予 算	
		受取利息・配当金	1,270,000	
		その他の受取利息・配当金	1,270,000	
		その他の教育活動外収入	2,000,000	
		収益事業収入	2,000,000	
	教育活動外収入計	3,270,000		
	事業活動支出の部	科 目	予 算	
		借入金等利息	43,263,000	
		借入金利息	43,263,000	
		その他の教育活動外支出	0	
教育活動外支出計		43,263,000		
教育活動外収支差額			△ 39,993,000	
経常費差額			99,550,000	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	
		資産売却差額	0	
		不動産売却差額	0	
		その他の特別収入	0	
		現物寄付	0	
		施設設備補助金	0	
		過年度修正額	0	
	特別収入計	0		
	事業活動支出の部	科 目	予 算	
		資産処分差額	0	
		不動産処分差額	0	
		その他の資産処分差額	0	
		その他の特別支出	0	
		過年度修正額	0	
		特別支出計	0	
	特別収支差額			0
	[予備費]			15,000,000
基本金組入前当年度収支差額			99,550,000	
基本金組入額合計			△ 126,439,000	
当年度収支差額			△ 26,889,000	
前年度繰越収支差額			0	
基本金取崩額			0	
翌年度繰越収支差額			△ 26,889,000	
(参考)				
事業活動収入計			2,176,626,000	
事業活動支出計			2,092,076,000	

学校法人湘南ふれあい学園ふれあい医療福祉研修センター 平成28年度事業計画

事業名	喀痰吸引等研修	介護職員初任者研修 (通信併用)	医療事務講座 (初級・中級)	ケアマネ試験対策 講座(通信)	ケアプラン作成 クラス(通信)	社会福祉士 実習指導者講習会	看護師実習指導者 講習会	介護福祉士 実務者研修	社会福祉専攻科 (通信)
実施主体	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	茅ヶ崎リハビリテーション専門 学校附帯事業	茅ヶ崎リハビリテーション専門 学校附帯事業
開始時期	H25～	H27～	H25～	H26～	H27～	H27～	H27～	H27～	H10～
申請先	神奈川県	神奈川県	—	—	—	関東信越厚生局	厚生労働省	神奈川県	神奈川県
期日	H28.10～11月	第1回：H28.5～6月 第2回：H28.8～9月 第3回：H28.11～ 12月 第4回：H29.2～3月	初級：H28.6～12月 中級：H28.11～ H29.2月	H28.8～H28.9	H28.10～H28.11	H29.2月	H28.7～11月	H28.3～H28.8 H29.2～H29.7	毎年4月～ 翌年12月末
期間	講義：7日 演習：1日 実習：1日	講義：15日 実習：2日	初級：6ヶ月 中級：講義12日	模試1回	通信3回、講義1日	講義2日	250時間	6ヶ月間	1年9ヶ月
場所	講義：茅ヶ崎リハビリ テーション専門学校 演習：茅ヶ崎看護 専門学校 実習：茅ヶ崎新北陵 病院ほか	講義：茅ヶ崎リハビリ テーション専門学校 実習：湘南シルバー ガーデンほか	初級：通信の為なし 中級：茅ヶ崎リハビリ テーション専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	湘南医療大学	講義：茅ヶ崎リハビリ テーション専門学校 医療的ケア：茅ヶ崎 看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校
受講料	100,000円 (テキスト代別)	60,000円 (テキスト代込)	初級：39,000円 (テキスト代込) 中級：37,500円 (テキスト代別)	3,000円	3,000円	8,000円 (テキスト代別)	80,000円 (テキスト代別)	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修：30,000円	350,000円 (テキスト代別)
定員	20名	各20名	初級：25名 中級：20名	20名	20名	20名	40名	30名	80名
取得資格	喀痰吸引等研修修了	介護職員初任者研修	ふれあい医療事務管 理士(初級・中級)	—	—	社会福祉士実習指導 者講習会修了	看護師実習指導者講 習会修了	介護福祉士国家試験 受験資格	社会福祉士国家試験 受験資格

※その他、認知症サポーター養成講座の開講及び認定看護師教育機関申請を準備中

平成28年度 湘南ふれあい学園 監事監査の方針・計画

1 監査の対象

- 業務監査：湘南医療大学、下田看護専門学校
 会計監査：公認会計士と連携

2 監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議へオブザーバーとして出席
- ・湘南医療大学および下田看護専門学校
 学校の業務内容を主として、監事が
 学長、副校長と面談しヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

3 監査重点項目

・業務監査（ヒアリング内容）

湘南医療大学	下田看護専門学校
<ul style="list-style-type: none"> ・学部学科運営状況等について ・学生募集状況について ・授業/生活支援について ・研修制度の実施状況について 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科運営状況等について ・学生募集状況について ・学生支援について ・国家試験対策について

・会計監査（ヒアリング内容）

学校法人
<ul style="list-style-type: none"> ・経理担当者による月次会計監査の状況報告 ・会計士による各校実査報告 ・資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、事業活動収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表等の書類を閲覧しながら、公認会計士から平成28年度の予算執行状況等の確認を実施する。

4 監査の実施時期

- 定期監査（業務監査） 内部監査終了後平成28年9~2月の間に実施。
 内部監査（平成27年8月頃予定）は、内部監査班が実施。
 （会計監査） 平成28年4~5月公認会計士、内部監査班と連携して実施。

5 監査報告書の作成

- 監査報告書（業務監査）平成28年3月までに報告する
 （会計監査）平成28年5月